

資料3

論点整理表（令和4年度業務実績・財務諸表等）

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
1	6	質問	在職社会人を受け入れている博士課程では、どのような職業の方が在籍しているのか（差し支えなければ）	博士課程については、他大学の助手、弁護士、農業など、多様な職業の方が在籍しています。	学生課
2	9	質問	国際教養大学の留学生との学生交流は、美大のもつ資源が効果的に活用されている例だと思う。協定など、交流の枠組みはできているのか	国際教養大学と個別の連携協定は締結していませんが、平成26年度に県内の国公立4大学の連携協定を締結しており、その枠組みをきっかけとした流れで、令和2年度から同大学との学生交流を実施しているものです。	企画課
3	17	質問	県内枠と市内枠の特別推薦の選抜はどのような形でなされているか。芸術という教育研究分野の普遍性と、公立大学に対する地域からの期待の受け止め方として、入学者の地域バランスについては、どのような議論がなされているか。	特別推薦の県内枠と市内枠については、県外者が受験する一般推薦も合わせ、すべての受験者が同じ試験を行い、各区分ごとに合否を決定しています。 入学者の地域バランスについては、例年、全体として県内より県外の受験者が多いため、県外の方が入試成績が高い傾向は見られますが、県内者が特に入試成績が低いということはありません。 入試に関しては、毎年、在学生の入試成績と入学後の学業成績の関係について分析し、適切な入試のあり方について検証していますが、例年特定の入試区分や出身地の県内・県外による入学後の成績の偏りはみられません。今後も本学の理念や学びにふさわしい学生を広く全国から受け入れること、県内で芸術分野に関心のある優秀な学生を受け入れることの両面を追究しながら、アドミッションポリシーに沿った優秀な学生の受け入れにつなげていくことを目指しています。	学生課
4	21	質問	令和5年度入試において、社会人特別選抜で募集人員若干名のところ1人の入学実績があるのにもかわらず、自己評価を「C」としたのはなぜか。	社会人特別選抜の情報発信については強化に努め、入学実績もあったものの、社会人に対して本学で学ぶ魅力を周知することができたかという観点では、目標に達しなかったと自己評価したものです。社会人に対する魅力の発信については、今後も引き続き内容や手法について検討していくこととしています。	学生課
5	21	質問	情報発信を強化した結果、何が良くなって自己評価がCなのかわからない。	社会人特別選抜の情報発信については強化に努めたものの、社会人に対して本学で学ぶ魅力を周知することができたかという観点では、目標に達しなかったと自己評価したものです。社会人に対する魅力の発信については、今後も引き続き内容や手法について検討していくこととしています。	学生課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
6	24	質問	令和4年度の業務実績において、バリアフリー化に関する記載のみにとどまっているが、共通工房設置に関する検討は進めているのか。	共通工房の予定場所の1つであるサークル棟について、スペースを確保するために現在置かれている作品等の整理を行っています。また、施設設備委員会において、共通工房に設置（移動）する既存の学内設備の選定や配置などについて検討を開始しています。	総務課
7	33	質問	後援会からの助成として「資格取得」があるが、学生はどのような資格取得を目指しているか。	これまでの実績としては、TOEIC、食品衛生責任者、色彩検定等の資格を取得しています。	学生課
8	38	質問	一般的に言う「就職率」はどうか。また、県内・市内への就職状況はどうか。進路が決定していない学生のフォローについては。	66名の就職希望者のうち62名が就職しており、文部科学省の定義（就職希望者に占める就職者の割合）で計算すると93.9%になります。12名が県内に、うち11名が市内に就職しています。令和5年度からハローワークの就職支援ナビゲーターと連携しており進路未決定学生への対応もできる体制となっています。	学生課
9	41	質問	LGBTQに関する施設面での対応、相談体制についての検討状況。	学内4か所（講義棟C1F、ギャラリー棟、サークル棟、大学院1F）に設置していた多機能トイレについて、これまで身体障がい者用トイレの表示であったものを、性別や障がいの有無等を問わず誰でも利用できる表示に変更しました。また、キャンパスソーシャルワーカーおよび非常勤の臨床心理士による学生相談において、LGBTQに関する相談に応じています。	総務課 学生課
10	56	質問	「空き家レジデンスプロジェクト」の持続性や新規開拓の課題について	当該プロジェクトの空き家は、主に学生の制作活動や展示会場として頻繁に利用されており、空き家の活用という社会的意義に加えて、美術大学の学生特有のニーズに対する支援策としても重要な役割を果たしており、今後も継続していくべきものと考えています。一方、空き家の老朽化に伴い、代替となる新規物件の開拓に着手しているが、立地や建物の構造等の要件に合致する物件が見つからないことが課題となっています。	企画課
11	59	質問	S評価の理由を具体的に知りたい	令和4年度に新規に展開した秋田県立大学および国際教養大学をはじめ産学官の協働による「技術×教養×デザインで拓く森林資源活用による次世代に向けた価値創造共創拠点」プロジェクトは、地方創生に向けて地域資源をフル活用した新しい循環システムの創造を目指す共同研究（2年間で事業費総額約150,000千円）であり、地域社会への貢献度が高いことから「S」評価としたものです。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
12	63	質問	秋田県が主催する「あきたサイエンスクラブ科学講座」と美大がどう関わっているのかわからない。また、6人の中高生が参加したと記載されているが、令和4年度の計画の中に、この講座が組まれていたとしたならば、参加員数計画等はあったのか。S評価はおそらく9割がたコンソーシアムの評価だと思うが、この6人参加のサイエンス～はここに記載する必要がある	当該講座は、秋田県が中高生を対象に科学や産業に触れる機会を提供することを目的として、毎年度、大学等に委託し開講しているものであり、本学では、美術の視点から講座を提供するとともに、広い意味での入試広報としても取り組んでいます。なお、計画策定前に、秋田県から講座開講の打診はきていないことから、計画に組み入れてはしません。S評価は、数値目標が設定されている高大連携授業数の実績に基づくものですが、計画に上積みしてさらなる実績があったという意味で当該講座の実績も記載しています。	企画課
13	74	質問	学内委員会を教員と事務職員による構成にしたことによって、変わった点があれば教えていただきたい	教職員の相互理解が進んだとともに、組織の目標を共有し、互いに責任を分かち合うことで、教職協働の体制づくりが促進されたと考えています。	総務課
14	77	質問	「対象教員」の意味について。また、評価結果の活用について、想定していることがあれば。	評価の対象となる教員は、専任教員であり、特任教員と助手は対象外であるほか、当該年度の新任者と年度末退職予定者も対象外としています。 また、教員評価については、制度の課題を検討し改善を図っているところであり、現時点では評価結果の活用については検討しておりません。なお、職員の場合は、評価結果を基に面談を行い、人材育成への活用を図っています。	総務課
15	85	質問	科研費の申請者の増加は評価出来るが、採択率が極めて低いのは、分野の特徴もあると考えるか。	新しい事実や解釈の発見を目的とする研究活動において、芸術分野は直接的に学術や科学技術、社会などへの波及効果が期待される研究の課題（問い）を設定することが他の分野と比較するとやや難しいことから、科研費採択率にも少なからず影響していると考えています。本学の実績をみても、建築関係や美術理論、美術史などの限られた分野での採択となっています。 一方、本学が掲げる「領域横断」のように、芸術分野単体ではなく、他の分野と複合することで新たな研究分野の創出や課題の発掘は可能であると考えており、引き続き勉強会の実施や外部専門機関による添削指導を通じて科研費の獲得を支援してまいります。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
16	93	質問	内部質保証の推進によって、自己評価委員会が実質的に機能した事例があれば1例でもお示しいただきたい。	令和3年度の業務実績に係る自己評価委員会の評価によりB評価やC評価となった項目は、令和4年度中に改善措置を講じるべき項目として学内共有が図られ、所管課又は委員会は早急に改善に取り組むこととなります。例えば、令和3年度の業務実績において、外部資金獲得に向けた教員への支援策の取組がB評価を受けているが、支援策の充実を図るため、令和4年度は新たに外部機関による添削指導を導入しており、この受講者のうち2名が科研費の採択を受けるに至っています（うち1名は初めて基盤研究（C）で採択）。	企画課
17	103 (又は51～57)	質問	「地元企業等のニーズの把握に努め…地元企業等との連携を強化する」（中期目標）および「学生の学外活動や創作活動等を支援する」（年度計画）に関し、具体的にどのような成果が上がったか。例えば、地元企業から依頼を受けて商品・サービスのデザインを提供した等の成果があれば、お示し頂きたい。 また、あきびネットの活用は行われているようだが、地元企業等のニーズを把握するためのチャンネルとして、十分と評価しているか。	具体的な成果として受託事業である2022年度ビヨンスケープがあり、内容は、あきびネット会員である企業から「社屋を秋田のアートを発信するモニュメントにしてほしい」との依頼を受けて実施したものです。フラッグポールを使い、光柱をイメージしたインスタレーションを展開した作品を提供しています。 また、あきびネットから情報交換会や奨学金の審査等を通じ、本学学生を採用した感想や本学学生に期待すること等についてご意見をいただいております。地元企業のニーズ把握に努めていますが、あきびネット会員以外の地元企業もあることから、インターンシップや本学学生の就職先へのアンケートを通じ本学学生に今後に期待すること等の聞き取りを行っています。	企画課 学生課
18	財務諸表	質問	繰越積立金、目的積立金の使途計画と市や議会の関与について差し支えなければ教えていただきたい	繰越積立金と目的積立金の使途計画については、毎年度、秋田市との予算査定で財政課と調整しながら対象事業を決めており、議会に対しては資料提供を行っております。	総務課
19	財務諸表	質問	貸倒引当金の期末残高が0となっているが、その処理の理由と会計処理を教えてください。	未納除籍分の授業料について、消滅時効を迎えたため、公立大学法人秋田公立美術大学債権管理規程第9条第1項第3号の規定に基づき債権放棄を行いました。 貸倒引当金については、今回が開学以来初の引当金計上であり令和4年度徴収不能者がいなかったことから貸倒の確率は低く会計士と相談のうえ、引当金の計上はしないこととしました。会計処理は、債権放棄の際、徴収不能引当金と未収金を相殺処理しております。	総務課
20	決算報告書	質問	予算額に比べ、決算額の支出が71,036,635円少ない要因は何か。	主な要因は、教員不補充等による人件費42百万円と受変電設備高圧気中開閉器更新工事の繰越による施設費補助金未執行分の23百万円であります。	総務課